

令和4年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和5年1月19日
江別市立文京台小学校

1 本年度の重点目標

- 重点1 基礎基本を徹底し、知識・技能を確実に習得させる学校づくり
- 重点2 共に学びあい、思考力・判断力・表現力を高める学校づくり
- 重点3 地域とともに、夢を育む力を涵養する学校づくり

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

(自己評価は4点満点中、3.4(85%)以上で「A」評価、児童アンケートも肯定回答85%以上で「A」とした)

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
経営方針の重点	<p>■本年度の重点目標が実現可能な具体性をもって明確に示され、実践されているか。</p> <p>【経営の重点と具体的な取組指標】</p> <p>重点目標: 自己を見つめ、夢を育み、共に学びあう文小の子の育成</p> <p>【重点1】基礎基本を徹底し、知識・技能を確実に習得させる学校づくり</p> <p>◎家庭学習・読書の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習 ~児:3.6 学:3.4 ・読書の推進~児:3.4 保:2.7 学:3.3 <p>【重点2】共に学びあい、思考力・判断力・表現力を高める学校づくり</p> <p>◎よりよい人間関係や支持的学級風土づくり</p> <p>~学:3.2</p> <p>【重点3】地域とともに、夢を育む力を涵養する学校づくり</p> <p>◎大学との連携教育の推進~学:3.3</p>	B	<p>評 年2回の学校評価を実施し、年度の重点目標に照らし合わせて教育活動の見直しを行った。中間評価を行う今後の方向性について進める上で有効だった。また中間評価に書かれていた記述をもとにHPに新企画を設けるなどの機動性も発揮できた。</p> <p>今年度の重点に関しては、【重点1】「読書の推進」【重点2】「支持的学級風土づくり」【重点3】「大学連携」に関する評価が全て前年度を上回っており、コロナ禍でも学びを止めない工夫や新しい発想での教育活動が進められている。</p> <p>改 教育活動が、年度の重点目標の達成に向けて展開されるよう意識しながら取り組むとともに、その検証方法等についても関連性が明確になるようなマネジメント・サイクルの確立を目指していきたい。</p>	A	A
	<p>■重点についての取組や成果・取組状況等が広く発信され、家庭や地域の理解と協力を得て、学校経営が進められているか。</p> <p>【評価指針と評価結果】</p> <p>学:情報発信~特色ある教育活動や児童の様子を紹介等、自校の成果と魅力の最大限の発信…3.5</p> <p>保:学校は、参観日や個人懇談、学校・学年だより・HP等により、学校や子どもの様子などがよく伝わるように努めている…3.4</p>	A	<p>評 コロナ禍ではあったが、開催方法を工夫して参観日や個人懇談を実施することができた。日常の様子を学級便りに掲載したり、HPの更新や校長室便りを発行したりすることで情報発信に力を入れ、向上を図ることができた。</p> <p>改 次年度以降もHPやマチコミメール等を積極的に活用しながら、学校の様子や取組状況を発信していきたい。</p>	A	A
教育課程・学習指導	<p>■考えたり思ったりしたことを進んで表現(発表)する力が、子ども達に身に付いているか。</p> <p>【評価指針と評価結果】</p> <p>児:自分の考えを進んで言ったり、書いたりすることができるか…3.2</p>	B	<p>評 児童アンケートにおいて83%以上の肯定的な回答があった。Aにはわずかに届かなかったものの、児童たちには積極的に表現しようとする姿勢が見られる。コロナ禍の授業で教師主導による一斉授業が中心となり、話し合いや活動場面が少なかったことも要因として挙げられる。</p> <p>改 児童に、「新しい学校の生活様式」を基本とした工夫の中で、集団で学ぶことのよさや楽しさを体感できる授業を展開したり、</p>	A	A

			表現する機会を設けたりすることで、表現することへの抵抗感をなくし、さらなる表現力の向上を目指していきたい。		
	<p>■運動会や学芸発表会等の様々な行事で、子ども達は意欲的に励み、個性を表現できているか。</p> <p>【評価指針と評価結果】</p> <p>児: 運動会では、徒競走やよさこいなどに全力で取り組んだか…3.8</p>	A	<p>評 児童アンケートにおいて95%以上の肯定的な回答があった。日程の関係上、設問に学芸発表会の項目を含めることができなかったが、それを加えたとしても評価は変わらなかったと推測できるほど、児童たちは表現活動において意欲的であった。</p> <p>改 行事を通して児童に何を育てるのかを明確にし、振り返りによって児童が自己の成長を感じられるよう指導しながら、その後の日常の授業や活動にもつなげられるようにしたい。</p>	A	A
	<p>■「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、子ども達が意欲をもって取り組む授業が展開されているか。</p> <p>【評価指針と評価結果】</p> <p>児: テレビやタブレット、パソコンを使った授業はわかりやすいか…3.8</p> <p>児: 学校の勉強は、よくわかるか…3.7</p> <p>保: 学校は、授業の工夫に積極的に取り組み、「確かな学力」の育成に努めている…3.4</p> <p>学: ICT 機器を積極的に活用した教育活動の工夫・改善…3.4</p>	A	<p>評 全学年にタブレットが導入され、高学年を中心に活用が進んでいる。ICT 機器を活用した授業は、児童の関心・意欲を高め、理解を深めさせていることが読み取れる。また、学級学年閉鎖や出席停止の児童にリモート学習を実施することで、学びの保障に努めた。</p> <p>改 授業内容や指導体制を工夫し、児童がより積極的に学習課題に取り組み、生き生きと授業に臨むことで、確かな学力を身に付けさせたい。次年度もギガサポーターの支援を受けつつ、ICT に関する教職員の研修をいっそう強化していきたい。</p>	A	A
	<p>■宿題や家庭学習の取組により、子ども達が自学自習に向かうようになっているか。</p> <p>【評価指針と評価結果】</p> <p>児: 宿題や家庭学習をがんばっているか…3.6</p> <p>学: 学習習慣～「学習のあたりまえ」と家庭学習確立のための工夫…3.4</p>	A	<p>評 児童アンケートにおいて92%以上の肯定的な回答があり、たいへん意欲的に家庭学習に取り組んでいることがうかがわれる。教師の評価は児童よりも低いことから、家庭学習における質的な向上を目指した適切な指導が必要であると考えます。</p> <p>改 「ミラファイノート」や「ノートチャンピオン」等の取組や啓発、家庭との連携・協働による校内体制を整え、さらなる充実を図りたい。</p>	A	A
生徒指導	<p>■自分から進んであいさつをする力が子ども達に身に付いているか。</p> <p>【評価指針と評価結果】</p> <p>児: 自分から進んであいさつをすることができるか…3.5</p> <p>保: 学校は、子ども達が元気で明るいあいさつができるよう指導に努めている…3.4</p> <p>学: 生徒指導～素直な心の育成、あいさつの徹底等、予防的生徒指導の推進・積み上げ…3.3</p>	A	<p>評 日頃からの指導の継続により、児童アンケートにおいて93%以上の肯定的な回答があった。しかし、教職員による評価は3.3とやや低かった(評価としてはBの領域)。また、あいさつに関しては教職員、保護者ともに「物足りない」、「もっと進んであいさつができるように指導していくべきだ」といった記述もあった。今年度は児童会によるあいさつ運動を行うことができ、児童の自発的な挨拶が校内で増えている。</p> <p>改 来年度は、児童会による「あいさつ運動」を継続する一方で、家庭や地域とも連携を図り、あいさつの意義などを意識させ、自然にあいさつができる児童を増やしていきたい。</p>	A	A

	<p>■縦割り班（異学年集団）活動を通して、助けたり、教えてもらったりする等、協力し合う子ども達に育っているか。</p>	—	<p>※ 縦割り班活動は、本校で伝統的に行われている素晴らしい実践であるが、今年度はコロナ禍により行うことができなかった。児童アンケートや教師の評価項目においても、今年度については割愛している。</p>	A	A
	<p>■お互いに認め合ったり、助け合ったりし、思いやりある行動ができる子ども達に育っているか。 【評価指針と評価結果】 児: 友達と助けあいながら、仲よく過ごすことができているか…3.8 保: 学校は、生命を大切にできる態度や人を思いやる気持ち、感動する心など、「豊かな心」の育成に努めている…3.4 学: 道徳教育～心に響く道徳教育の推進と道徳科指導方法研修の充実…3.3</p>	A	<p>評 「かがやきの木」運動や児童会による「ありがとう活動」（「3・9〈サンキュー〉ポスト」の設置）等の取組を継続し、互いのよさに気づかせたり、感謝の思いを持たせたりするよう、意図的・計画的に取り組んできたことが、成果として表れてきている。</p> <p>改 今後も道徳科や教育活動全体を通して、相手意識が向上するよう指導を継続し、自他を大切にできる心を育てていきたい。</p>	A	A
いじめ問題	<p>■学校いじめ防止基本方針に基づいて、実態等を周知したり、組織的に対応したりすることができているか。 【評価指針と評価結果】 学: いじめ・不登校～いじめアンケート等を活用した実態把握…3.6</p>	A	<p>評 学校では国や道の指針に則り、年2回のアンケート等をもとにしたいじめの認知、児童の個人面談、日常の様子観察による実態把握と未然防止に努めてきた。また、いじめの積極的認知をより推進するために、指導部を中心に校内研修を行い、共通理解を図った。</p> <p>改 いじめ対応については、関係する児童・保護者への配慮のもとで慎重に進めながら、保護者との連携を密に行うなどの関係性を大切にしていける。また、いじめに関しては、未然防止・初期段階での解決が重要である。日常的な児童と教師、家庭と学校とのコミュニケーションが基盤となることから、より相談しやすい関係性の構築と、丁寧な説明や対応が重要であると考えている。</p>	A	A
地域連携	<p>■保護者や地域（自治会・大学等）と連携・協力し、地域の教育力を生かしながら、地域に開かれた「信頼される学校」づくりが進められているか。 【評価指針と評価結果】 学: 家庭・地域連携～目標やビジョンを家庭・地域と共有するなど信頼される学校づくりの推進…3.3 学: 大学連携～学校運営委員会との連携充実による、地域とともにある学校づくりの推進…3.5</p>	A	<p>評 文京台小学校は、北翔大学との連携協定のもと連携教育が実践できている。また、様々なボランティアによる支援も受けながら、「社会に開かれた教育課程」を展開することができている。修学旅行での〇〇教授による火山学習、大宮准教授によるリズム体操や体育の出前授業など、できることをできる範囲で実施することができた。また、PTA 主催のイベントを夏、冬の年2回行うことができた。</p> <p>改 児童の実態や学校が抱えている課題について、情報提供や連携を進め、学校・家庭・地域が一体となって児童の健やかな成長に積極的に関わることで、いっそう「地域とともにある学校」づくりを進めてゆきたい。</p>	A	A
<p>【評価項目の設定、達成状況及び改善の方策に関する学校関係者評価委員の意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日常の校内生活で生徒の様子を観ているわけではないのでなかなか評価をしづらい面が多くあります。日頃の屈託のない子どもたちの顔を見ていると学校生活も概ね上手くいっているものと思います。 ・ 評価・改善策の結果は、先生達の努力のたまものです。 					

